

## 会場アクセス

### ○ 水戸駅北口から水戸市民会館

徒歩：水戸市泉町1丁目7-1を目指してください。徒歩20分。途中の目印は 水戸駅北口⇒銀杏坂⇒水戸郵便局⇒常陽銀行本店⇒ドーミーイン水戸⇒みずほ銀行水戸支店⇒水戸市民会館

バス：水戸駅北口バス乗り場（4～7番）から、行先表示に「大工町」と記載のあるバスに乗り、「泉町1丁目」下車（「大工町」を通るバスは全て「泉町1丁目」に停車します。）。支払方法にご注意ください。

- ・茨城交通（水戸駅北口4.5.7番乗り場）：現金、クレカタッチ決済、QRコード決済 [交通系ICカード不可]
- ・関東鉄道（水戸駅北口6番乗り場）：現金、交通系ICカード決済 [クレカタッチ決済、QRコード決済不可]

タクシー：1000円未満

自家用車：会場の駐車場は使えません。近隣の時間貸駐車場をご利用ください。

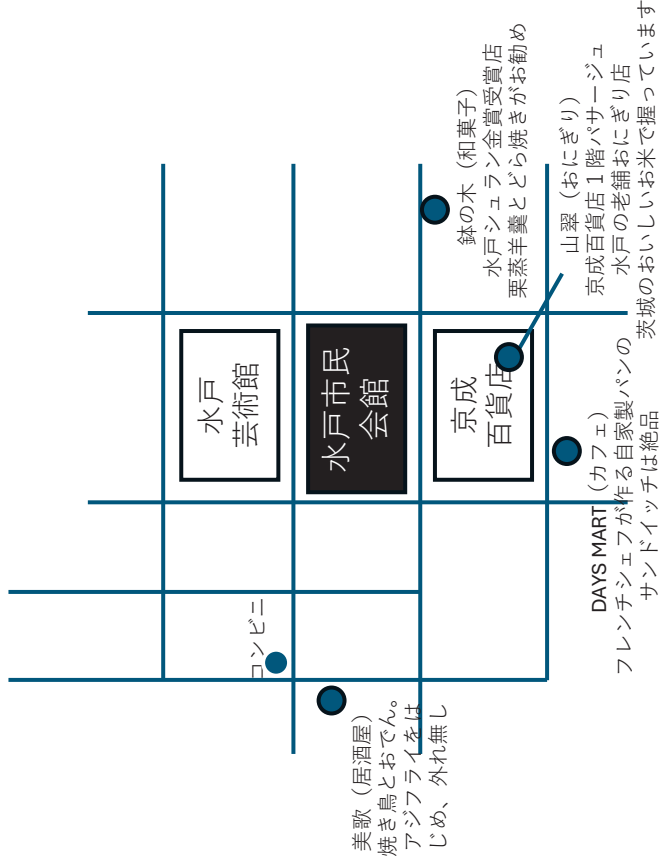
### ○ 東京からのアクセス

電車：品川駅・東京駅・上野駅から常磐線特急「ひたち」「ときわ」利用。所要 約1～2時間。

高速バス：東京駅八重洲口から高速バス「みと号」の「赤塚経由」で約2時間。「泉町1丁目」停留所が会場の目の前。「みと号（県庁経由）」は「泉町1丁目」に行かないのでご注意ください。

# 一般社団法人 日本保健物理学会 第58回研究発表会





おまけ 大会長のおすすめグルメマップ  
他にもおすすめがたくさんありますよ。

# 放射線管理の ベストパートナー



富士電機は、放射線計測業界で長年培った豊富な知識と経験を活かし、お客様にとって最適な放射線管理システム・サービスをご提供します。

## 放射線モニタリングシステム RI排水／排気処理設備

設計・施工・保守、速へい計算等の  
各種申請、届出書類作成補助、  
施設の廃止手続き等

## サーベイメータ/線量計

サーベイメータ各種  
( $\alpha$ 線、 $\beta$ 線、 $\gamma$ 線、低エネルギーX線、中性子)  
電子線量計各種( $\beta$ 線、 $\gamma$ 線、中性子)  
RIキャリアブレータ等の  
その他測定装置



# 日本保健物理学会第58回研究発表会開催概要

日程 2025年12月18日(木)～12月20日(土)  
場所 水戸市民会館(茨城県水戸市)

## 12月18日(木)

12:00～ 受付開始  
A会場 13:10～ 開会式  
13:30～ 招待講演  
15:00～ 企画セッション(線量臨時委員会)  
16:30～ 特別企画セッション【公開】(原子力規制庁・日本保健物理学会)

B会場 15:00～ 口頭発表セッション(放射線計測1)  
16:30～ 口頭発表セッション(放射線計測2)

C会場 15:00～ 口頭発表セッション(現場の放射線管理1)  
16:30～ 口頭発表セッション(現場の放射線管理2)

## 12月19日(金)

A会場 10:00～ 企画セッション(放射線防護標準化委員会)  
11:00～ CKJ Plenary Session  
13:00～ CKJ Session

B会場 09:00～ 口頭発表セッション(放射線教育1)  
10:30～ 口頭発表セッション(放射線教育2)  
13:00～ 口頭発表セッション(放射線計測3)  
14:30～ 口頭発表セッション(放射線計測4)

C会場 09:00～ 口頭発表セッション(環境放射能1)  
10:30～ 口頭発表セッション(環境放射能2)  
13:00～ 口頭発表セッション(現場の放射線管理3)  
14:30～ 口頭発表セッション(防災・緊急時対応)

展示室 16:00～ ポスターセッション  
18:00～ 懇親会

## 12月20日(土)

A会場 09:00～ 口頭発表セッション(1F事故関連1)  
10:30～ 口頭発表セッション(1F事故関連2)  
12:00～ 閉会式

B会場 09:00～ 口頭発表セッション(線量評価1)  
10:30～ 口頭発表セッション(線量評価2)

C会場 09:00～ 口頭発表セッション(放射線影響)  
10:30～ 口頭発表セッション(防護理論)

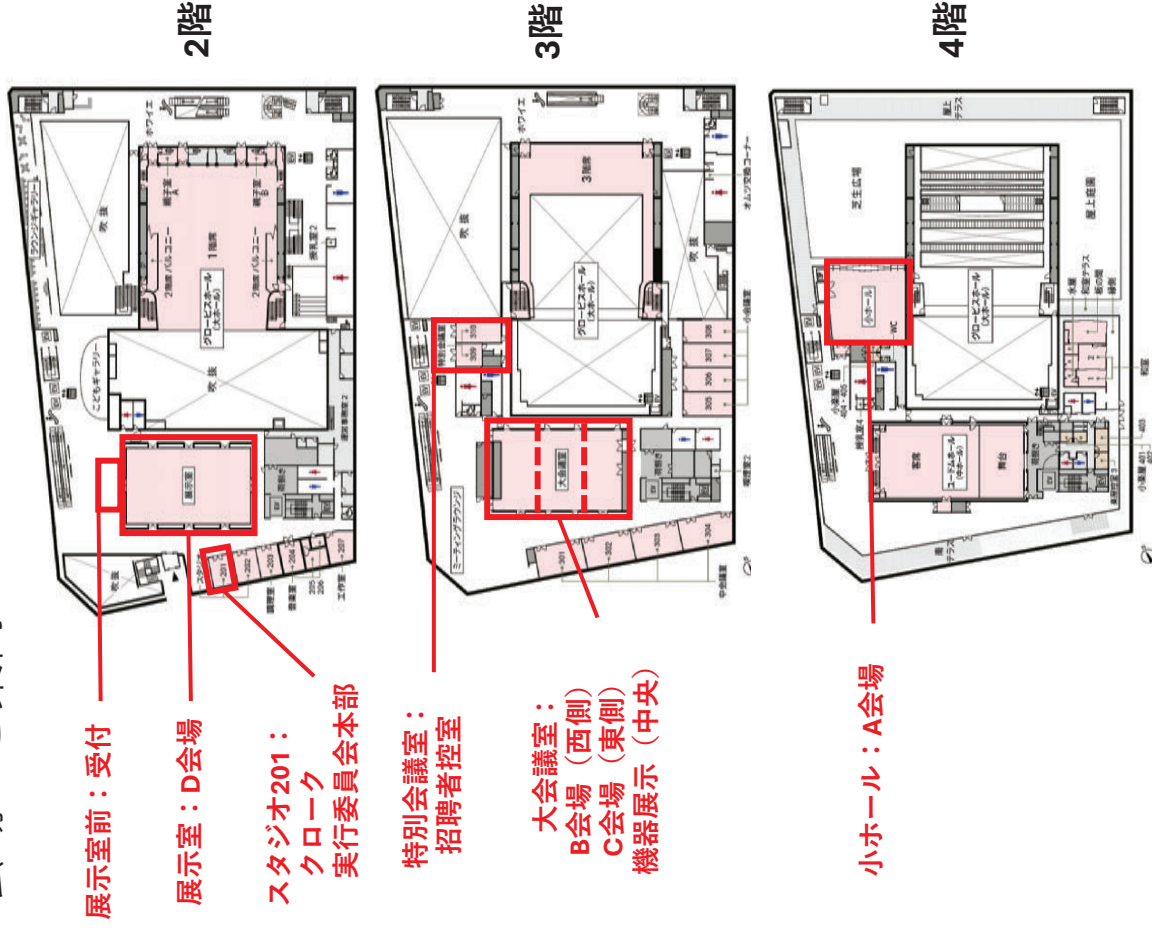
## オプションナラツアー

12:45～ 【参加申込み者のみ】

プログラムはこちらから  
<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/jhps2025/sessions>



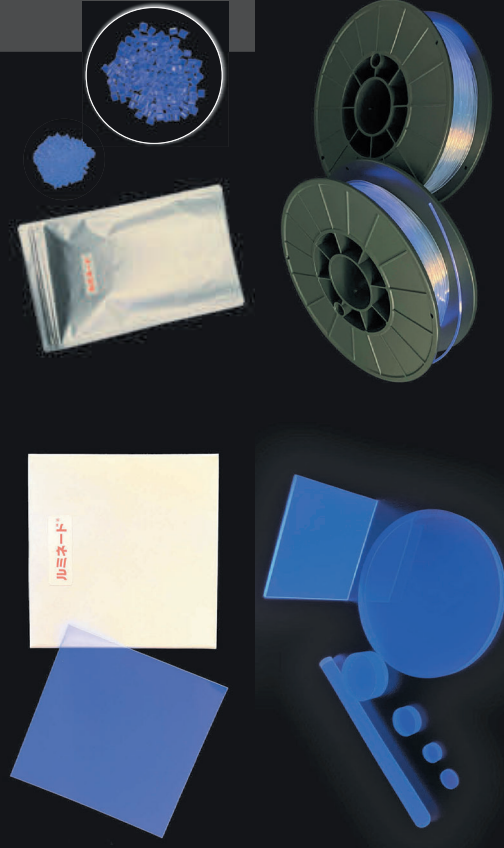
## 会場のご案内



大会受付：2階（展示室前）  
 開会式、招待講演、企画セッション、閉会式：A会場（4階小ホール）  
 口頭発表会場：A会場（4階小ホール）、B会場（3階大会議室）  
 C会場（3階大会議室）  
 ポスター発表会場：D会場（2階展示室）  
 機器展示会場：3階大会議室  
 懇親会：D会場（2階展示室）

# ルミネード® シリーズ

新しい形を提案し続ける、次世代型シンチレータ



放射線（β線等）測定用 | シートタイプ / ペレットタイプ  
 プラスチックシンチレータ

X(γ)線対応 鉛フリー金属充填 | X  
 プラスチックシンチレータ

放射線（β線等）測定用 | 3DPフィラメント  
 プラスチックシンチレータフィラメント

「伝える」「彩る」「守る」ことで、豊かな未来を実現する

**TOKYO ink**

東京インキ株式会社

- オフセットインキ
- プラスチック用着色剤
- グラビアインキ
- プラスチック用機能材
- インクジェットインク
- 土木・環境資材
- 印刷関連資材
- 包装・産業資材



〒114-0002 東京都北区王子1-12-4 TIC王子ビル TEL. 03-5902-7651

<https://www.tokyoink.co.jp>



# V-tect

新発売

## 鉛フリーレンズ使用

安心素材の鉛フリーレンズを採用  
側面まで覆う形状で、側方からの散乱線を効果的に遮蔽  
オーバーグラスタイプで、メガネの上から装着可能  
付属品により快適な装着をサポート

鉛当量：0.45mmPb  
放射線遮蔽率：150kVの場合93%



### 付属品

#### ヘッドバンド

ハードな動きにも対応



#### ズレ防止ゴム

下を向いても  
ズレ落ちない



#### 鼻パッド

柔らかく、フィット性に  
優れている



お問い合わせ

長瀬ランダウア株式会社 営業部

TEL: 029-839-3322 FAX: 029-836-8441  
mail@nagase-landauer.co.jp  
<https://www.nagase-landauer.co.jp/>



## 参加者各位へお知らせ

### ➤ 参加登録について

- 事前登録がお済の方は、あらかじめ参加証を印刷してご持参ください。
- 未登録の方は、受付で参加登録をお願いします。
- 懇親会の参加についても、事前登録をお願いします。
- 受付では現金は取り扱いません。クレジットカードのご準備をお願いします。

大会参加登録費（当日登録）		懇親会費	
正会員	9,000円	一般	6,000円
学生会員	3,000円	学生	3,000円
非会員	11,000円		

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/jhps2025/content/event>



### ➤ 会場の使用について

- 会場内ではネームホルダーをご着用ください。
- 昼食は各口頭発表会場（A、B、C会場）をご利用ください。
- ごみは各自でのお持ち帰りにご協力ください。

### ➤ Wi-Fi環境

- SSID: jhpsMito
- パスワード: hobutsu58

# 参加者各位へお知らせ

12月20日（土）

B会場 【口頭発表】

1030-1200 線量評価2

- [3205-08-01] 粒径分解型 $\alpha$ ダストモニタ開発：初期データによる概念検証 \*黒江 彩萌<sup>1</sup>、坪田 陽一<sup>1</sup>、Laffolley Hugo<sup>1</sup>、狩野 貴宏<sup>1</sup> (1. 日本原子力研究開発機構)
- [3205-08-02] 電荷・LETパラメータ線量係数の宇宙放射線LET計測への適応手法 \* 内藤 雅之<sup>1</sup>、小平 聡<sup>1</sup> (1. 量子科学技術研究開発機構)
- [3205-08-03] ICRP RBEタスクグループの活動状況と組織反応に対する加重係数提案に向けた個人的取り組み \*佐藤 達彦<sup>1</sup> (1. 日本原子力研究開発機構)
- [3205-08-04] ICRU Report 95の導入に向けたIAEAの取り組み：放射線防護の信頼性と整合性の確保を目指して \*小口 靖弘<sup>1</sup>、Bokulić Tomislav<sup>2</sup>、Cruz-Suárez Rodolfo<sup>3</sup>、Hajek Michael<sup>3</sup>、Saito Monteiro de Barros Vinicius<sup>4</sup>、Hupe Oliver<sup>5</sup>、Merza Victor<sup>6</sup>、Milcewicz-Mika Izabela<sup>7</sup>、de Souza Santos Denison<sup>8</sup>、Vanhaveer Filip<sup>9</sup>、Yukihiro Eduardo<sup>10</sup> (1. 株式会社千代田テクノロ、2. University of Zagreb、3. International Atomic Energy Agency、4. Federal University of Pernambuco、5. Physikalisch-Technische Bundesanstalt、6. University of Lisbon、7. Institute of Nuclear Physics, Polish Academy of Sciences、8. Institute of Radiation Protection and Dosimetry、9. SCK CEN Belgian Nuclear Research Centre、Belgium、10. Paul Scherrer Institute)

C会場 【口頭発表】

0900-1030

- 放射線影響 [3301-04-01] デジタルPCRを用いた新規DNA損傷評価手法に関する研究 \*松尾 陽一郎<sup>1</sup>、清水 喜久雄<sup>2</sup>、泉 佳伸<sup>2</sup> (1. 福井大学大学院 工学研究科、2. 福井大学 附属国際原子力工学研究所)
- [3301-04-02] DNA損傷の修復効果を考慮した放射線生物学数理モデルの提案 \*泉 佳伸<sup>1</sup>、中島 和也<sup>2</sup>、松尾 陽一郎<sup>2</sup>、清水 喜久雄<sup>1</sup> (1. 福井大学 附属国際原子力工学研究所、2. 福井大学 工学研究科)
- [3301-04-03] 放射線治療におけるkV-CBCTの線源モデル構築手法の検討 \*松尾 萌<sup>1</sup>、張 維珊<sup>1</sup>、古場 裕介<sup>1</sup>、Puspren Chakraborty<sup>1</sup>、鈴木 天葉<sup>1</sup>、山口 祐佳里<sup>1</sup> (1. 東京都立大学院 人間健康科学研究科 放射線科学域、2. 量子科学技術研究開発機構 放射線医学研究所 放射線規制科学研究部 リスク評価グループ)
- [3301-04-04] 福島県小児甲状腺がん検査の疫学的分析 \*永井 宏幸<sup>1</sup> (1. NP0市民科学研究室)

1030-1140

- 防護理論 [3305-07-01] 自然起源放射性物質による被ばくの特徴を反映した放射線防護上の解釈と防護規準の検討 \*小池 弘美<sup>1</sup>、飯本 武志<sup>1</sup> (1. 東京大学)
- [3305-07-02] 放射線防護理論の定量的基盤 \*熊澤 蕃<sup>1</sup>、豊田 亘博<sup>2</sup>、加藤 和明<sup>3</sup>、山口 一郎<sup>4</sup> (1. 元日本原子力研究所 (原子力機構前身)、2. 豊田放射線研究所、3. 洗練課題研究所、4. 国立保健医療科学院)
- [3305-07-03] 米国Executive Order 14300 Section 5(b)を巡る動向とその影響の分析 \*高原 省五<sup>1</sup>、更田 豊志<sup>2</sup> (1. 日本原子力研究開発機構、2. 東京大学)

## ➤ 口頭発表について

- 一般講演口頭発表の発表時間は12分です。7分の質疑応答の時間を設けます。
- 口頭発表用の投影資料は、受付にご提出ください。USBメモリでの提供をお願いします。
- セッション開始10分前に会場前方にお集まりください。

## ➤ ポスター発表について

- ポスターは18日16時までに、講演番号で指定した場所に掲示してください。
- 20日13時までに撤去願います。

## ➤ 禁止事項

- 本研究発表会のすべての講演、発表には、その作者と発表者に著作権があります。
- これらの著作物の録画、撮影等の行為は一切禁止とさせていただきます。
- またこれらの著作物を本会以外のホームページ、SNS等に掲載することも、固くお断りいたします

12月20日（土）

A会場 【口頭発表】

0900-1030 1F事故関連 1

【3101-04-01】 原子力事故・放射線緊急事態後の緊急時と現存被ばく状況における作業者の線量制限体系その1 -Individual dose-restriction levelの提案 \*服部 隆利<sup>1</sup> (1. 原子力損害賠償・廃炉等支援機構)

【3101-04-02】 原子力事故・放射線緊急事態後の緊急時と現存被ばく状況における作業者の線量制限体系その2 -Individual dose-restriction levelの変更ににより増加し得る生涯リスクの定量評価- \*菊池 遼<sup>1</sup>、服部 隆利<sup>1</sup> (1. 原子力損害賠償・廃炉等支援機構)

【3101-04-03】 日本国と東京電力による福島第一原発事故、緊急時における被ばくと被害を検証するために \*瀬川 嘉之<sup>1</sup> (1. 高木学校)

【3101-04-04】 福島第一原子力発電所における放射線防護の取り組み \*高村 怜士<sup>1</sup>、黒 萩 真之<sup>1</sup>、鈴木 優太<sup>1</sup>、野村 匡芳<sup>1</sup>、金濱 秀昭<sup>1</sup> (1. 東京電力HD)

1030-1150 1F事故関連 2

【3105-08-01】 福島第一原子力発電所における創傷汚染発生時の初期対応及び肺モニタに用いられる高純度Ge $\gamma$ 線検出器の傷モニタへの適用検討 \*中根 達矢<sup>1</sup>、大野 雅子<sup>1</sup>、百瀬 琢磨<sup>1</sup>、鈴木 優太<sup>1</sup>、野村 匡芳<sup>1</sup>、金濱 秀昭<sup>1</sup> (1. 東京電力ホールディングス株式会社)

【3105-08-02】 飛跡情報の機械学習をもとにした高線量環境用の軽量 $\alpha\beta$ 線ダストモニタの開発と現場実証 \*坪田 陽一<sup>1</sup>、ラフオレ ユーゴ<sup>1</sup>、辻 智也<sup>1</sup>、本田 文弥<sup>1</sup>、中村 博樹<sup>1</sup>、鈴木 政浩<sup>1</sup> (1. 日本原子力研究開発機構)

【3105-08-03】 小児甲状腺スクリーニングにおける甲状腺サイズと短寿命放射性核種が測定値に及ぼす影響：シミュレーション研究 \*北島 貴弘<sup>1</sup>、小嶋 光明<sup>2</sup>、恵谷 玲央<sup>2</sup>、甲斐 倫明<sup>1</sup> (1. 日本文理大学、2. 大分県立看護科学大学)

【3105-08-04】 東京電力福島第一原子力発電所事故直後における避難指示対象区域外からの避難行動：福島県相馬市・南相馬市・いわき市を対象にしたアンケート調査から \*山口 文恵<sup>1</sup>、高原 省五<sup>1</sup>、鍵 慶和<sup>2</sup>、多田 健太<sup>2</sup>、LEE SEUNGMIN<sup>2</sup>、米山 太賀<sup>2</sup>、福井 桃子<sup>2</sup>、関谷 直也<sup>2</sup> (1. 日本原子力研究開発機構、2. 東京大学)

0900-1030 線量評価 1

【3201-04-01】 粒子輸送計算コードPHITSを用いた水晶体及び肺組織の微視的な被ばく線量評価に対する予備的解析 \*高久 侑己<sup>1</sup>、佐々木 瑛麻<sup>1</sup>、萩野 晴之<sup>1</sup> (1. 原子力規制庁)

【3201-04-02】 簡易型WBCによる年齢別計算評価 \*三村 健人<sup>1</sup>、吉富 寛<sup>1</sup>、谷村 嘉彦<sup>1</sup> (1. 日本原子力研究開発機構)

【3201-04-03】 X線CT画像を用いた日本人の吸入被ばく線量評価のための気管・気管支モデル構築の検討 \*小西 美咲<sup>1</sup>、酒井 優菜<sup>1</sup>、三瓶 葵<sup>1</sup>、田岡 愛弥<sup>1</sup>、森田 竹史<sup>2</sup>、對馬 史泰<sup>3</sup>、掛端 伸也<sup>3</sup>、掛田 伸吾<sup>3</sup>、小山西 暢<sup>1</sup>、Anderson Donovan<sup>4</sup>、大森 康孝<sup>4</sup>、Kranrod Chutima<sup>4</sup>、細田 正洋<sup>1,4</sup>、床次 眞司<sup>4</sup> (1. 弘前大学大学院保健学研究科、2. 弘前大学医学部附属病院医核技術部、3. 弘前大学大学院医学研究科、4. 弘前大学城ばく医療総合研究所)

【3201-04-04】 核燃料サイクル工学研究所における個人線量計の外部委託に向けた対応 \*佐久間 修平<sup>1</sup>、海野 基義<sup>1</sup>、中川 貴博<sup>1</sup> (1. 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構)

## 特別セッションの見どころ(講演予稿より抜粋)

招待講演 (12/18(木)13:30～ A会場)

培養細胞レベルでの低線量・低線量率放射線による遺伝子影響

Genetic effect of low dose or low dose rate radiation: An approach using cultured mammalian cells

田内 広 Hiroshi TAUCHI

現行のICRP 勧告をはじめとする安全管理の基盤には、放射線による確率的影響のLNT 仮説がある。LNT 仮説は、安全管理上の合理性は担保でき一方で、低線量域において真に生物学的現象と合致するかに関しては、異なる説との整合性を含め、いまだに議論が決着していない。とりわけ放射線影響は、線量だけでなく線量率によっても変化するため、線量と線量率という2つの側面から生物学的な真実を解明することが必要である。近年の生命科学の進展を活かした研究アプローチは、低線量・低線量率域における新たな知見を提供し、将来の放射線防護はもとより、普遍的な生命現象の本質の解明につながる事が期待される。筆者はヒトやマウスの培養細胞を材料として用い、遺伝子突然変異の誘発を軸として低線量率放射線被ばく影響の解析に取り組んできた。本講演では、線量率をキーワードに、放射線被ばくで生じる細胞レベルの確率的影響について、以下2つの観点から研究の歴史を含めた概要をレビューし、放射線防護との関係で今後に解明されるべき生命科学課題についても整理しておきたい。

企画セッション (12/18(木)15:00～ A会場)

放射線関連量の課題に関する検討委員会

Committee on Issues Related to Dosimetric Quantities

本臨時委員会は、放射線関連量とそれらの課題を改めてレビューするとともに、ICRP147 やICRU95によつて提案されている新線量体系の整備に向けた課題を抽出するとともに、将来の法令取入れまでの対応に関する提言を行うことを目的としている。

2年目の今年度は以下の3つの項目について検討を進めてきた。以下、順次簡単に紹介する。

- ①放射線関連量の過去の経緯の再整理
- ②新線量体系に関する課題の整理及び国内外の動向の調査
- ③新線量体系適用までの具体的アクションのロードマップ素案の策定

特別企画セッション【公開】(協賛：原子力規制庁)

(12/18(木)16:30～ A会場)

「我が国における自然起源放射性物質の現状と今後の展望」～報告書『自然起源放射性物質に対する放射線防護の基本的考え方』を踏まえて

NORM の取扱い、物質の特性や環境条件、関係主体の立場を踏まえ、個別事例ごとに検討することが重要である。今後は、天然資源や廃棄物を扱う事業者や自治体を対象に普及啓発および情報共有の強化を図り、行政・産業界・学术界が連携して、現場レベルでの合理的な管理体制の確立を目指す。



特別セッションの見どころ(講演予稿より抜粋)

企画セッション (12/19(金)10:00～ A会場)

放射線防護標準化委員会活動報告～受動形個人線量計の空港保安検査対策ガイドラインの検討状況

The guideline for carrying passive individual dosimeters through airport security checks

日本保健物理学会 放射線防護標準化委員会は、空港の保安検査を対象として、受動形個人線量計の自施設からの持ち出しに関し、空港の保安検査対策の検討を行い、ガイドラインを作成している。ガイドラインの作成にあたっては、日本保健物理学会「受動形個人線量計の空港保安検査時の線量調査に関する検討委員会専門研究会」の活動報告書を参考にするとともに、専門研究会の参画を得た。  
ガイドラインでは、線量管理者がその管理する受動形個人線量計の測定値の信頼性を確保するために、放射線業務従事者が航空機を利用する際の受動形個人線量計等の準備・空港保安検査時の個人線量計の取り扱い方法等について、それらを決定するための指針を示す予定である。なお、このガイドラインは、放射線業務従事者が各々の受動形個人線量計の自施設からの持ち出しに関して考慮すべき内容を知るためにも有効である。

企画セッション (12/19(金)11:00～ A会場)

Plenary Session for CKJ Collaboration Program

企画セッション (12/19(金)13:00～ A会場)

International Special Session “The LNT Model - Challenges and Future Perspectives”

The purpose of this study is to present an expanded and integrated overview of the Linear-No-Threshold (LNT) model as applied within the International Commission on Radiological Protection (ICRP) system, and to summarize recent evidence relevant to low-dose radiation risk estimation. This work aims to clarify the scientific, ethical, and practical foundations that sustain the continued use of the LNT model in radiological protection policy, while also examining its implications for national regulatory structures such as those implemented by the Korean Association for Radiation Protection (KARP). Methods involved a structured review of the 2025 ICRP memorandum, key epidemiological datasets, and contemporary literature addressing biological mechanisms at low doses, with focus on model consistency, population-level effects, and applicability to protection principles.

予稿集はこちらから (別途参加登録者にお知らせしたパスワードが必要です)

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/jhps2025/cont/abstract->



株式会社テクノエーピー

年度末セールのご案内

2026

～3.31

マルチチャネルアナライザ

APU7308-8k-DM25C

高圧内蔵1CH  
小型デジタルバルスプロセッサ  
APU201-M-DM25C



¥898,000 (税抜)



¥898,000 (税抜)

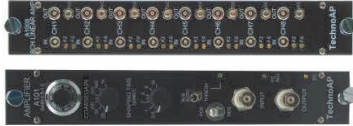
入力	8CH
固定デッドタイム	1μs
ADCゲイン	最大 8k ch

入力	1CH
サンプリング	500Msps
分解能	14bit

スペクトロスコピアンブ

¥468,000 (税抜)

¥838,000 (税抜)



A101-DM25C	A1008-DM25C
入出力	1CH
波形整形	アクティブフィルタ方式
Shaping Time	0.5, 1, 2, 3, 6, 10μs
	0.5, 2, 6μs

USB-MCAシリーズ



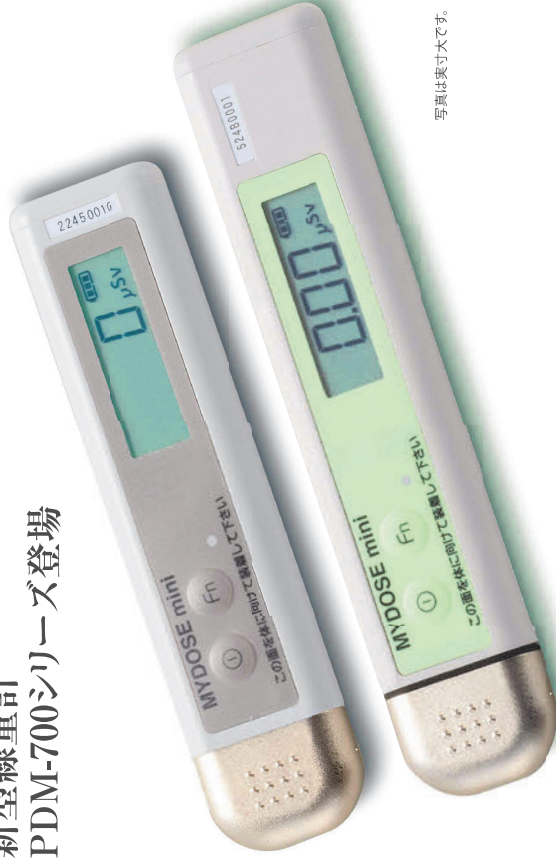
¥298,000 (税抜)

¥318,000 (税抜)

¥268,000 (税抜)

APG7302B-DM25C	APG7400B-DM25C	APG7300D-DM25C
入力	2CH	1CH
固定デッドタイム	1μs	2μs
ADCゲイン	最大 16k ch	最大 16k ch
動作モード	ヒストグラム, リスト, MCS, コインシデンス	ヒストグラム, リスト, MCS, コインシデンス

## 新型線量計 PDM-700シリーズ登場

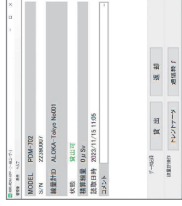


写真は実寸大です。

## 半導体式電子ポケット線量計 マイドーズミニ PDM-700シリーズ

### 特長

- 半導体検出器を使用したペンシル型のスリムな電子式線量計
- ノイズ対策（電磁場や振動衝撃への耐性強化）を実施、測定値の信頼性が大幅に向上
- 液晶表示を大きくして視認性が向上
- データ保存機能搭載（最大1000件）
- γ線用、中性子線用、X線用のラインナップ
- Bluetooth通信用アプリ（オプション）



Bluetooth通信用アプリの画面

## アロカ株式会社

〒180-0006 東京都武蔵野市中町1-20-8 大樹生命三層ビル2F Tel: 0422-38-9972 [www.aloka.co.jp](http://www.aloka.co.jp)

## 特別セッション一覧

### 12月18日（木）

- A会場 1330～1500 【招待講演】  
 [1101-01-01] 培養細胞レベルでの低線量・低線量率放射線による遺伝子影響 \*市内 広<sup>1</sup> (1. 茨城大学)
- A会場 1500～1630 【放射線関連量の課題に関する臨時委員会報告】  
 [1102-05-01] 委員会の概要 \*小田 啓二<sup>1</sup> (1. 電子科学研究所)  
 [1102-05-02] 線量の変遷 \*吉澤 道夫<sup>1</sup> (1. (公財)放射線計測協会)  
 [1102-05-03] 課題整理・動向 \*小口 靖弘<sup>1</sup> (1. 株式会社千代田テクノル)  
 [1102-05-04] ロードマップ案 \*高木 俊治<sup>1</sup> (1. 三菱総合研究所)

- A会場 1630～1800 【新報告書「自然起源放射性物質に対する放射線防護の基本的考え方」について】  
 [1106-09-01] 報告書策定にあたっての経緯、工夫と今後の課題 \*永松 聡一郎<sup>1</sup> (1. 原子力規制庁)  
 [1106-09-02] NORMに関する国内研究と今後の展望 \*米原 英典<sup>1</sup> (1. 原子力安全研究協会)  
 [1106-09-03] ラドン防護の現状と課題 \*床次 真司<sup>1</sup> (1. 弘前大学)  
 [1106-09-04] 保健物理学会の専門機関としての役割 \*杉浦 紳之<sup>1</sup> (1. 株式会社千代田テクノル) パネルディスカッション 座長：甲斐倫明

### 12月19日（金）

- A会場 1000～1100 【放射線防護標準化委員会活動報告～受動形個人線量計の空港保安検査対策ガイドラインの検討状況】  
 [2101-04-01] 放射線防護標準化委員会活動概要 \*橋本 周<sup>1</sup> (1. 日本原子力研究開発機構)  
 [2101-04-02] ガイドライン本文 \*関口 寛<sup>1</sup> (1. 長瀬ランダウア)  
 [2101-04-03] 解説 \*伊知地 猛<sup>1</sup> (1. (一財)電力中央研究所)  
 [2101-04-04] 例題 \*篠崎 和佳子<sup>1</sup> (1. 千代田テクノル)
- A会場 1100～1200 【Plenary Session for CKJ Collaboration Program】  
 [2105-07-01] CSR Overview and Recent Activities \*Liye Liu<sup>1</sup> (1. CSRP/CIRP)  
 [2105-07-02] Current Status and Issues of Korean Association for Radiation Protection \*Lee Hee-Seock<sup>1</sup> (1. President of Korean Association for Radiation Protection)  
 [2105-07-03] Overview and Current Status of JHPS \*藤田 博喜<sup>1</sup> (1. 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構)

- A会場 1300～1600 【International Special Session “The LNT Model - Challenges and Future Perspectives”】  
 [2108-14-01] General Overview of the LNT Model from KARP:ICRP Perspectives and Recent Epidemiological Findings \*Min Baek<sup>1</sup> (1. POSTECH)  
 [2108-14-02] Biological Effects of low-dose Radiation : From Basic to Clinical Studies \*Ji-Young Kim<sup>1</sup> (1. RHL/KHNP)  
 [2108-14-03] A Critical Examination of the Social Side Effects of the LNT Model: Legislative, Administrative, and Judicial Perspective \*Eunok Han<sup>1</sup> (1. NEPC/SNU)  
 [2108-14-04] Association of low-dose ionizing radiation with cancers: Chinese medical X-ray workers cohort study \*Qiang Liu<sup>1</sup> (1. IRM-CAMS)  
 [2108-14-05] A Study On The Attribution Of Lung Cancer Among Miners Based On The Excess Relative Risk Coefficient Of Radon-induced Lung Cancer In Chinese People \*Yue Ren<sup>1</sup> (1. CIRP)  
 [2108-14-06] Occupational Doses among Radiation Workers in Japan \*西田 一隆<sup>1</sup> (1. 日本エヌ・ユー・エス)  
 [2108-14-07] LNT: what have we learned and where do we stand? \*浜田 信行<sup>1</sup> (1. 電力中央研究所) パネルディスカッション 座長：伴信彦





12月18日（木）

B会場 【口頭発表】

1500-1630 放射線計測1

[1201-04-01] GM管式空間線量率連続測定装置（EcoGamma）の環境モニタリングへの適用  
\*鈴木 敦雄<sup>1</sup>、若松 雄二<sup>2</sup>、今津 佳子<sup>3</sup>、堤 正人<sup>4</sup>、一瀬 昌嗣<sup>1</sup>（1. ミリオントテクノロジーズ・キャンベラ株式会社、2. 静岡県環境放射線監視センター）

[1201-04-02] 高時間分解能半導体ピセル検出器を用いた放射線飛来方向推定手法の検討  
\*本田 文彰<sup>1</sup>、辻 智也<sup>1</sup>、坪田 陽一<sup>1</sup>（1. 原子力機構）

[1201-04-03] 配管内のα汚染直接測定のための小型α線検出器の開発  
\*森下 祐樹<sup>1</sup>、山田 勉<sup>2</sup>、中曽根 孝政<sup>3</sup>、菅野 麻里奈<sup>3</sup>、堀山 賢雪<sup>4</sup>、佐々木 美雪<sup>5</sup>、眞田 幸尚<sup>1</sup>、鳥居 建男<sup>5,6</sup>（1. 日本原子力研究開発機構、2. 日本放射線エンジニアリング株式会社、3. 株式会社ベスコ、4. 原子力エンジニアリング株式会社、5. 福井大学、6. 福島大学）

[1201-04-04] Evaluation of Environmental Radiation Variations in Namie Town by Car-borne Survey Technique \*PLUEMIT Theerawa<sup>1</sup>、大森 康孝<sup>2</sup>、細田 正洋<sup>1,2</sup>、床次 眞司<sup>2</sup>（1. 弘前大学大学院 保健学研究科 放射線科学技術領域、2. 弘前大学 被ばく医療総合研究所）

1630-1800 放射線計測2

[1205-08-01] X線用電子ポケット線量計の放射線特性向上 \*沢畑 克樹<sup>1</sup>、富澤 昌寛<sup>1</sup>（1. アロカ株式会社）

[1205-08-02] 電子ポケット線量計の耐電磁波性能および耐振動衝撃性能の向上 \*富澤 昌寛<sup>1</sup>、沢畑 克樹<sup>1</sup>（1. アロカ株式会社）

[1205-08-03] 眼の水晶体用線量計DOSIRISの低線量検出能力の検証 \*上床 哲明<sup>1</sup>、竹林 佐知子<sup>1</sup>、狩野 好延<sup>1</sup>、大綱 裕司<sup>1</sup>、篠崎 和佳子<sup>1</sup>（1. 株式会社テクノロ）

[1205-08-04] 疑似飛跡の誤検出低減に向けたDeep Learning機能による画像処理プログラムの開発 \*織田 祐樹<sup>1</sup>、橋詰 拓弥<sup>1</sup>、嶋野 祐貴<sup>1</sup>、北澤 創<sup>1</sup>（1. 長瀬ランダウア株式会社）

C会場 【口頭発表】

1500-1630 現場の放射線管理1

[1301-04-01] 「身体汚染時に用いる洗浄剤等の効果評価手法に関する検討」(1)文献調査に基づく除染方法の提案 \*藤澤 真<sup>1</sup>、沼田 祐介<sup>2</sup>、生天目 聖<sup>1</sup>、塩谷 聡<sup>2</sup>、吉田 忠義<sup>2</sup>（1. 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 核燃料サイクル工学研究所 放射線管理部 線量計測課、2. 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 核燃料サイクル工学研究所 放射線管理部 放射線管理第2課）

[1301-04-02] 身体汚染時に用いる洗浄剤等の効果検証方法に関する検討 (2) 洗浄剤等の効果検証方法の標準化 \*沼田 佑介<sup>1</sup>、藤澤 真<sup>2</sup>、生天目 聖<sup>2</sup>、塩谷 聡<sup>2</sup>、吉田 忠義<sup>1</sup>（1. 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 核燃料サイクル工学研究所 放射線管理部放射線管理第2課、2. 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 核燃料サイクル工学研究所 放射線管理部線量計測課）

[1301-04-03] 皮膚汚染時における皮膚等価線量の評価精度の向上を目的としたβ線用測定器の開発 \*石井 達也<sup>1</sup>、佐川 直貴<sup>1</sup>、嘉藤 達樹<sup>1</sup>、中川 貴博<sup>1</sup>（1. 国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構）

[1301-04-04] 水晶体用放射線防護具の開発 \*平戸 未彩紀<sup>1</sup>、佐川 直貴<sup>1</sup>、高瀬 龍弥<sup>1</sup>、山本 和也<sup>1</sup>（1. 国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構）

1500-1630 現場の放射線管理2

[1305-08-01] 「空気汚染モニタリング用紙への付着物が与える影響に関する検討」(1)全体概要及ぶる紙付着物に関する調査 \*富岡 哲史<sup>1</sup>、佐々木 一樹<sup>1</sup>、嘉藤 達樹<sup>1</sup>、平戸 未彩紀<sup>1</sup>、山下 大智<sup>1</sup>、今橋 淳史<sup>1</sup>、吉田 忠義<sup>1</sup>（1. 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構）

[1305-08-02] 「空気汚染モニタリング用紙への付着物が与える影響に関する検討」(2)ホット試験による計算モデルの検証 \*佐々木 一樹<sup>1</sup>、富岡 哲史<sup>1</sup>、嘉藤 達樹<sup>1</sup>、平戸 未彩紀<sup>1</sup>、山下 大智<sup>1</sup>、今橋 淳史<sup>1</sup>、吉田 忠義<sup>1</sup>（1. 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構）

[1305-08-03] 「空気汚染モニタリング用紙への付着物が与える影響に関する検討」(3)計算シミュレーションによる付着物影響の評価 \*嘉藤 達樹<sup>1</sup>、佐々木 一樹<sup>1</sup>、富岡 哲史<sup>1</sup>、平戸 未彩紀<sup>1</sup>、山下 大智<sup>1</sup>、今橋 淳史<sup>1</sup>、吉田 忠義<sup>1</sup>（1. 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構）

[1305-08-04] サーベイメータへの二次電池の適用に係る検討 \*内馬場 優太<sup>1</sup>、吉田 忠義<sup>1</sup>（1. 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構核燃料サイクル工学研究所放射線管理部放射線管理第2課）

12月19日（金）

D会場 【ポスター発表】 1600-1800

[2401-50-36] iNIPAMゲル線量計を用いた低エネルギーX線照射に対する線量応答性の評価とハンドヘルド蛍光X線分析装置の誤用による被ばく事故の際の線量評価への応用 \*近藤 峻<sup>1,2</sup>、川村 拓<sup>3,2</sup>、柳澤 京京<sup>2,4</sup>、松山 嗣史<sup>5,2</sup>、酒井 康弘<sup>4,2</sup>、浅井 竜哉<sup>1,2</sup>、吉井 裕<sup>2</sup>（1. 福井大学・工、2. GST・放射医研、3. 群馬県立県民健康科学大学、4. 東邦大学・理、5. 岐阜大学・工）

[2401-50-37] 原子力科学研究所における環境放射線モニタリング業務 ー福島第一原子力発電所事故後10年間の活動とモニタリングデーター \*竹内 絵里奈<sup>1</sup>、川崎 将聖<sup>1</sup>、大倉 毅史<sup>1</sup>、阿部 琢也<sup>1</sup>（1. 日本原子力研究開発機構）

[2401-50-38] 蛍光修飾法を用いたオリゴヌクレオチドの放射線損傷評価 \*内海 太貴<sup>1</sup>、松尾 陽一郎<sup>1</sup>、清水 喜久雄<sup>2</sup>、梶 佳伸<sup>2</sup>（1. 福井大学大学院 工学研究科、2. 福井大学附属国際原子力研究所）

[2401-50-39] LSC測定による環境試料中14C 簡易分析の最適化 \*玉利 俊哉<sup>1</sup>（1. 一般財団法人九州環境管理協会）

[2401-50-40] 小型γ線検出器による創傷汚染測定方法の開発 \*高橋 映奈<sup>1</sup>、佐久間 修平<sup>1</sup>、藤澤 真<sup>1</sup>、曾澤 薫<sup>1</sup>、細見 健二<sup>1</sup>（1. 日本原子力研究開発機構）

[2401-50-41] 内部被ばく線量評価のためのバイオアッセイにおける臭気対策の検討 \*前原 勇志<sup>1</sup>、國分 祐司<sup>1</sup>、松尾 一樹<sup>1</sup>、長谷川 涼<sup>1</sup>、野田 真優子<sup>1</sup>、佐佐木 光<sup>1</sup>、藤田 博雪<sup>1</sup>（1. 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構）

[2401-50-42] 様々な携帯型放射線測定器の高エネルギーγ線に対する応答特性評価 \*大石 皓平<sup>1</sup>、篠塚 友輝<sup>1</sup>、吉富 寛<sup>1</sup>、辻 智也<sup>1</sup>、山外 切太郎<sup>1</sup>（1. 日本原子力研究開発機構）

[2401-50-43] 放射線リスクコミュニケーションにおける評価項目と基準表を有する対話式ルーブリックの作成 \*大谷 浩樹<sup>1</sup>、坪内 唯夏<sup>2</sup>（1. 帝京大学 医療技術学部 診療放射線学科、2. 帝京大学大学院 医療技術学研究科 診療放射線学専攻）

[2401-50-44] 広範囲ふき取りによる汚染検査でのふき取り材の測定方法の検討 \*本岡 和博<sup>1</sup>（1. 大阪大学理学研究科技術部）

[2401-50-45] Status of particulate matter exposure in Bangladesh and the preliminary association with airborne microbiological organisms \*Nancy Asheda Anwar<sup>1</sup>、Hossain Mahboob<sup>1</sup>、Mouly Tonima Fairroz<sup>1</sup>（1. BRAC University, Bangladesh）

[2401-50-46] 鼻スミヤ測定最適化に向けた検討 \*石橋 奈敬<sup>1</sup>、田村 健<sup>1</sup>、黒江 彩萌<sup>1</sup>、小林 賢二<sup>1</sup>、中川 貴博<sup>1</sup>（1. 国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構）

[2401-50-47] 九州・中国地方における近年の環境トリウム濃度 \*山中 潤二<sup>1</sup>、玉利 俊哉<sup>1</sup>、安次富 政貴<sup>1</sup>、鶴本 めぐみ<sup>1</sup>、森本 敬子<sup>1</sup>、平敷 紗和子<sup>1</sup>、田籠 久也<sup>1</sup>（1. 一般財団法人九州環境管理協会）

[2401-50-48] 大洗原子力工学研究所ホットラボ施設における気流解析結果と空中放射性物質濃度のサンプリングにおける考察 \*福井 誠<sup>1</sup>、千頭和 慎吾<sup>2</sup>、菊地 紀宏<sup>1</sup>、田中 正晴<sup>1</sup>、橋本 周<sup>1</sup>、吉野 敏明<sup>1</sup>（1. 日本原子力研究開発機構、2. 量子科学技術研究開発機構）

[2401-50-49] Tritium and stable hydrogen and oxygen isotopes in dams and reservoirs in Thailand \*ピッタチャイアナン チョラダ<sup>1</sup>、Kosinakaran Kanyanan<sup>1</sup>、Kumsut Pantitwa<sup>1</sup>、Hamasaki Tatsuhide<sup>1</sup>、Hazama Ryuta<sup>1</sup>、Rittirong Anawat<sup>1</sup>、Sakakibara Koichi<sup>1</sup>、Hirano Yoshiyuki<sup>1</sup>、Kashiwaya Koki<sup>1</sup>、Oata Yoshimune<sup>1</sup>、Kato Yuka<sup>1</sup>、Sudprasert Wanwisa<sup>1</sup>、Saenboonruang Kiadtisak<sup>1</sup>、Khamanek Kanokwan<sup>1</sup>、Khuntong Soontree<sup>1</sup>、Toven Donruedee<sup>1</sup>、Phattanasub Archara<sup>1</sup>、Yongprawat Monthon<sup>1</sup>、Saengkorakot Chakrit<sup>1</sup>、Krisanangkura Piyawan<sup>1</sup>（1. Osaka Sangyo university）

[2401-50-50] Characteristic and Inhalation dose assessment of lead-210, beryllium-7 and potassium-40 over Osaka, Japan \*ゴージンアツカナン ガンヤナン<sup>1</sup>、Pitakchaian Chonlada<sup>1</sup>、Kumsut Pantitwa<sup>1</sup>、Hazama Ryuta<sup>1</sup>、Hamasaki Tatsuhide<sup>1</sup>、Rittirong Anawat<sup>1</sup>、Muramatsu Hisakazu<sup>2</sup>、Noithong Pannipa<sup>4</sup>（1. Osaka Sangyo University、2. Osaka University、3. Shinsu University、4. Roi Et Provincial Office of Learning Encouragement, DOL, Thailand）

[2401-50-51] 医療被ばく国民線量評価委員会医療被ばく国民線量評価委員会 \*小野 孝二<sup>1</sup>、藤淵 俊王<sup>2</sup>、横山 須美<sup>3</sup>、赤羽 恵一<sup>4</sup>、松原 孝祐<sup>1</sup>、川浦 雅代<sup>6</sup>、長谷川 隆幸<sup>7</sup>、恵谷 玲央<sup>8</sup>、張 維珊<sup>9</sup>、勝沼 泰<sup>10</sup>、山本 和幸<sup>6</sup>、福永 正明<sup>11</sup>（1. 東京医療保健大学、2. 九州大学、3. 長崎大学、4. 量子科学技術研究開発機構、5. 金沢大学、6. 名古屋大学、7. 東海大医学部附属東京病院、8. 大分県立看護科学大学、9. 東京都立大学、10. 東海大学医学部附属病院、11. 倉敷中央病院）



優秀ポスター発表の投票はこちらから  
<https://forms.gle/Z67qZnuqx58zWqS57>







[2401-50-18] 我が国の放射線防護及び原子力災害対策へ反映すべき国際動向の調査－原子力規制庁「令和7年度国際放射線防護調査事業」 \*賞雅 朝子<sup>1</sup> (1. JANUS、国際放射線防護調査専門委員会事務局)

[2401-50-19] 可搬型5段カスケードインパクターによる吸入被ばく線量評価とその不確かさ \*玉熊 佑紀<sup>1</sup>、真辺 健太郎<sup>2</sup>、Kranrod Chutima<sup>3</sup>、床次 真司<sup>3</sup> (1. 長崎大学、2. 日本原子力研究開発機構、3. 弘前大学)

[2401-50-20] 放射線モニタリングにおけるマイクロコンピュータを活用した多機能環境モニタの開発 \*岩岡 和輝<sup>1</sup>、渡辺 嘉人<sup>1</sup>、細田 正洋<sup>2</sup>、床次 真司<sup>2</sup>、喜多村 敏子<sup>1</sup>、盛武 敬<sup>1</sup> (1. 量子科学技術研究開発機構、2. 弘前大学)

[2401-50-21] 非破壊検査分野等におけるエックス線作業における放射線安全教育に関する専門研究会－活動報告－ \*古渡 意彦<sup>1</sup>、飯本 武志<sup>2</sup>、五十嵐 悠<sup>3</sup>、榎本 敦<sup>3</sup>、片岡 憲昭<sup>3</sup>、辻 智也<sup>3</sup>、橋本周<sup>1</sup>、小田 啓二<sup>6</sup>、赤平 理紗<sup>4</sup>、夏原 正仁<sup>7</sup> (1. 量子科学技術研究開発機構 放射線医学研究所 計測・線量評価部、2. 東京大学 環境安全本部、3. 東京大学医学部、4. 東京都立産業技術研究センター、5. 日本原子力研究開発機構、6. 一般財団法人 電子科学研究所、7. 島津製作所)

[2401-50-22]  $\beta$ 線標準場における校正方法を規定するISO 6980シリーズ2023年版の改訂内容の概要 \*加藤 昌弘<sup>1</sup>、二木 佐和子<sup>1</sup> (1. 産業技術総合研究所)

[2401-50-23] ポリカーボネート減弱板を用いたエネルギー低減 $\beta$ 線照射場の開発 \*二木 佐和子<sup>1</sup>、加藤 昌弘<sup>1</sup> (1. 国立研究開発法人産業技術総合研究所)

[2401-50-24] X線透過法における散乱線特性と線量評価の検討 \*辻 智也<sup>1</sup>、古渡 意彦<sup>2</sup>、片岡 憲昭<sup>3</sup>、本田 文弥<sup>1</sup>、谷村 嘉彦<sup>1</sup> (1. 原子力機構、2. 重研機構、3. 都産技研)

[2401-50-25] 原子力規制庁委託事業「将来の放射線防護体系における規制上の課題に関する調査事業」の活動について \*川口 勇生<sup>1</sup>、喜多村 敏子<sup>1</sup>、岩岡 和輝<sup>1</sup>、熊谷 敦史<sup>1</sup>、古場 裕介<sup>1</sup>、坂内 忠明<sup>1</sup>、盛武 敬<sup>1</sup> (1. (国研) 量子科学技術研究開発機構)

[2401-50-26] 個人線量計の装着区分別にみる個人線量の推移 \*犬飼 裕司<sup>1</sup>、篠崎 和佳子<sup>1</sup>、上床 哲明<sup>1</sup>、狩野 好延<sup>1</sup> (1. 株式会社千代田テクノル)

[2401-50-27] Systematic discussion on radiological and environmental factors for the elevated lung cancer rate in Bangladesh, focusing on socio-demographical information \*Hasan Md Mahamudul<sup>1</sup>、Ziyue Wang<sup>1</sup>、Igarashi Yu<sup>1</sup>、Koike Hiromi<sup>1</sup>、Iimoto Takeshi<sup>1</sup> (1. The University of Tokyo)

[2401-50-28] ラジカル挙動計算コードPHITS-Chemの計算性能向上に関する研究 \*吉井 勇治<sup>1</sup>、松谷 悠佑<sup>2</sup> (1. 北海道科学大学、2. 北海道大学)

[2401-50-29] ICRPとIAEAは表面汚染モニタリングに何を勧告してきたか \*辻村 憲雄<sup>1</sup> (1. 日本原子力研究開発機構)

[2401-50-30] 福島市における大気中トリチウム濃度の長期モニタリング結果 \*前川 曉洋<sup>1</sup>、羽田 浩樹<sup>2</sup>、橋本 晃佑<sup>3</sup>、佐藤 曉久<sup>1</sup> (1. 福島県環境創造センター福島支所、2. 福島県環境創造センター)

[2401-50-31] 福島県内におけるコンプトンカメラを用いたフィールド測定 \*大久保 幸祐<sup>1</sup>、村石 浩<sup>1</sup>、榎本 良治<sup>1</sup>、片桐 秀明<sup>2</sup>、加賀谷 美佳<sup>3</sup>、渡辺 至<sup>1</sup>、溝口 孝大<sup>1</sup>、塚本 ひかり<sup>1,4</sup>、石川 咲貴<sup>5</sup>、佐藤 如雪<sup>5</sup> (1. 北里大医、2. 茨城大理、3. 仙台高専、4. 東海大病院、5. ハヤシレビック株)

[2401-50-32] 企画委員会の活動 \*中田 よしみ<sup>1</sup>、神谷 栄世<sup>2</sup>、榎本 敦<sup>1</sup> (1. 東京大学、2. 神谷技術士事務所)

[2401-50-33] 原子炉級ブルトニウム<sup>238</sup>の吸入摂取時における肺計測による内部被ばく線量評価 \*内藤 雅之<sup>1</sup>、三瓶 優真<sup>1</sup>、矢島 千秋<sup>1</sup>、玉熊 佑紀<sup>2</sup>、キム ウンジュ<sup>1</sup>、谷 幸太郎<sup>3</sup>、古渡 意彦<sup>1</sup>、栗原 治<sup>1</sup> (1. 量子科学技術研究開発機構、2. 長崎大学、3. 東京都立大学) [2401-50-34] ガラスパッキンを利用した環境モニタリングサービスによる環境放射線監視への移行に係る検討 \*内山 怜<sup>1</sup>、佐々木 一樹<sup>1</sup>、細見 健二<sup>1</sup>、國分 祐司<sup>1</sup> (1. 国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構)

[2401-50-35] FRS標準場で確立した単色中性子フルエンスモニタリング手法の東北大学FNLへの適用 \*大畑 祥己<sup>1</sup>、西野 翔<sup>1</sup>、谷村 嘉彦<sup>1</sup>、古田 琢哉<sup>1</sup>、加田 涉<sup>2</sup>、三輪 美沙子<sup>2</sup>、通山 翔<sup>2</sup>、松山 成男<sup>2</sup> (1. 原子力機構、2. 東北大学)

## ミリオンテクノロジーズ・キャンベラの放射線計測システム



SPIR-Ace™ (GenieXP™) :  
検体測定サーベイメータ (Genie 対)



Intelligent Cryo-Cycle™ (ICC) :  
インテリジェント・クライオサイクル



Aegis™ :  
可搬型 HPGe スペクトロメータ



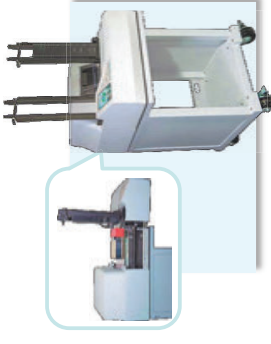
CZT In-Situ :  
超小型ガンマ線検出システム



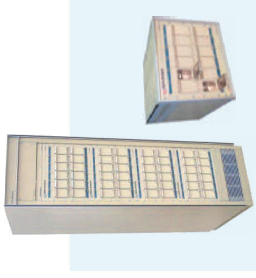
SAGE Well :  
スモールノード ウェル型 Ge 検出器



$\beta$  Ioniz 3™ :  
可搬型トリチウムモニタ



シリーズ 6LB :  
低バックグラウンド  $\alpha/\beta$  自動計測システム



Alpha Analyst™ :  
多入カアルファスペクトロスコープシステム



ICAM™ :  
連続アルファ線/ベータ線エモニタ



## REAL TIME RADON MONITORING

- High quality of measurement
- Reference device for calibration
- Polyvalent air, water and soil gas analysis

12月19日 (金)

D会場 【ポスター発表】 1600-1800



- [2401-50-01] 野生型マウスの頸動脈と大動脈に生じる血管損傷：線量遷延の低減・増強効果 \*浜田 信行、川野 樹一朗<sup>2</sup>、廣田 誠子<sup>2</sup>、Yusoff Farina Mohamad<sup>2</sup>、野村 崇治、斎藤 勇介<sup>2</sup>、中島 歩<sup>3</sup>、吉永 信治<sup>2</sup>、東 幸仁<sup>2</sup> (1. 電力中央研究所、2. 広島大学、3. 山梨大学)
- [2401-50-02] 連続放射線監視モニタの測定値に対する設置高さ・測定値単位・装置種別の影響解析 \*佐藤 俊<sup>1</sup>、外間 智規<sup>2</sup>、三上 智<sup>1</sup>、高橋 史明<sup>1</sup> (1. 日本原子力研究開発機構 (国研)、2. 住吉テストセンター (有))
- [2401-50-03] 放射線従事者中央登録センターにおけるデジタルアーカイブによる記録保存業務について \*伊藤 公雄<sup>1</sup>、鈴木 京<sup>1</sup>、佐藤 暢秀<sup>1</sup>、上野 哲朗<sup>1</sup>、山谷 祐二<sup>1</sup>、上條 茂<sup>1</sup>、川田 雪枝<sup>1</sup>、菅井 研一<sup>1</sup> (1. 公益財団法人 放射線影響協会)
- [2401-50-04] HT00の体内不均一分布 \*増田 毅<sup>1</sup>、高井 大策<sup>1</sup>、長島 明輝<sup>1</sup>、柿内 秀樹<sup>1</sup>、森脇 隆仁<sup>1</sup> (1. 環境科学技術研究所)
- [2401-50-05] 核医学分野の医療スタッフが受ける線量の簡易的な評価手法の構築のための検討：計算によるヨウ素131内用療法患者の病室内線量分布の推定と実測値との比較 \*横山 須美<sup>1</sup>、Ablykassymov Akezhan<sup>1</sup>、高比来 ひとみ<sup>2</sup>、武田 吉史<sup>1</sup>、玉熊 佑紀<sup>1</sup>、廖 騰飛<sup>1</sup>、工藤 崇<sup>1</sup> (1. 長崎大学、2. 日本赤十字九州国際看護大学)
- [2401-50-06] エックス線装置における自動警報装置の意義と現状 \*榎本 敦<sup>1</sup>、中田 よしみ<sup>1</sup>、神子 公男<sup>1</sup>、片岡 憲昭<sup>1</sup>、貫戸 千津子<sup>1</sup>、鳥井 頼子<sup>1</sup>、飯本 武志<sup>1</sup> (1. 東京大学、2. 東京都立産業技術研究センター)
- [2401-50-07] 放射線を題材とした自由探究型教育の実践 - 測定器を用いた能動的探究活動を通じて - \*加藤 之寛留<sup>1</sup>、脇田 奈々<sup>1</sup>、太田 智子<sup>1</sup>、田中 香津生<sup>2,3</sup> (1. (公財)日本分析センター、2. 加速キッチン(合)、3. 早稲田大学理工学術院総合研究所)
- [2401-50-08] 外部被ばくモニタリングの実用量：関連する国際動向及び原子力規制庁における安全研究 \*佐々木 瑛麻<sup>1</sup>、荻野 晴之<sup>1</sup>、伊豆本 幸恵<sup>1</sup>、森泉 純<sup>1</sup> (1. 原子力規制庁)
- [2401-50-09] LPWA通信技術の活用したモニタリングボスト間のデータ通信 \*加藤 季智<sup>1</sup>、山根 馨太<sup>1</sup>、浅野 浩史<sup>1</sup>、松島 純也<sup>1</sup>、倉橋 雅宗<sup>1</sup>、藤原 誠<sup>1</sup>、田中 孝典<sup>1</sup> (1. 島根県原子力環境センター)
- [2401-50-10] 空気動力学径の測定基盤技術としての安価で使い捨て可能なエアロゾル分級器「μSPLIT」 \*坪田 陽一<sup>1</sup>、ラフォレ ユーゴ<sup>1</sup>、黒江 彩萌<sup>1</sup>、狩野 貴宏<sup>1</sup> (1. 日本原子力研究開発機構)
- [2401-50-11] ICRP刊行物の翻訳事業報告 - 原子力規制庁「国内規制に係る国際放射線防護委員会刊行物の調査」事業 \*平杉 亜希<sup>1,2</sup>、森 茉莉<sup>1,2</sup>、賞 葉朝<sup>1,2</sup> (1. 日本エヌ・ユー・エス株式会社、2. ICRP刊行物翻訳委員会事務局)
- [2401-50-12] OSI積算線量測定システムの環境モニタリングへの導入に向けた検討 \*成田 真人<sup>1</sup>、藤本 正己<sup>1</sup>、白本 龍一<sup>1</sup>、網代 和広<sup>1</sup>、石井 康雄<sup>1</sup>、赤坂 博美<sup>1</sup> (1. QST那珂フュージョン科学技術研究所)
- [2401-50-13] 安芸灘とびしま海道における島嶼の環境放射線 (能) \*杉野 雅人<sup>1</sup>、城田 果穂<sup>2</sup>、田淵 俊丞<sup>3</sup> (1. 群馬県立県民健康科学大学、2. 慶友整形外科病院、3. 国立がん研究センター東病院)
- [2401-50-14] 電子スピン共鳴法を用いた原子力災害に被災した牛の非破壊的な線量推計 \*山口 一郎<sup>1</sup>、寺田 宙<sup>1</sup>、夏堀 雅宏<sup>2</sup>、三宅 実<sup>3</sup>、保田 浩志<sup>4</sup>、井上 一彦<sup>5</sup> (1. 国立保健医療科学院、2. 北里大学、3. 香川大学、4. 広島大学、5. ルイ・パスツール医学研究センター)
- [2401-50-15] トリプル四重極ICP-MSを用いた固相抽出法による葉菜中129I分析法の検討 \*楠山 宝孝<sup>1</sup>、葛西 邦生<sup>2</sup>、安積 潔<sup>1</sup> (1. 青森県原子力センター、2. 青森県危機管理原原子力安全対策課)
- [2401-50-16] インドネシアのバックグラウンドがんリスク計算と考察 \*木村 建貴<sup>1</sup>、佐々木 進也<sup>1</sup> (1. 電力中央研究所)
- [2401-50-17] Natural Radioactivity at the Tin Smelter in Bangka Island, Indonesia \*Rosiana Ilsa<sup>1,3</sup>、Pradana Radhi<sup>1,3</sup>、Indrastomo Frederikus Dian<sup>3</sup>、Rachael Yoshi<sup>3</sup>、Wahyudi Wahyudi<sup>3</sup>、Farid Muhammad Muhyidin<sup>3</sup>、Muhammad Adi Gunawan<sup>3</sup>、Madyaningrum Nuni Ik<sup>3</sup>、Nugraha Eka Diatnika<sup>3</sup>、Tazoe Hirofumi<sup>2</sup>、Tokonami Shinji<sup>2</sup>、Akata Naofumi<sup>2</sup> (1. Graduate School of Health Sciences, Hirotsaki University、2. Institute of Radiation Emergency Medicine, Hirotsaki University、3. Research Organization for Nuclear Energy (ORIN)、National Research and Innovation Agency (BRIN))



# RI利用者・施設管理者必見 30社 約450点の製品を掲載!!

## 放射線設備機器ガイド

# Gradin



サイトリニューアル予定  
⇒  
ご意見募集中

### ☆便利な検索機能

「ジャンル別」「企業別」検索から、機器・設備・サービス等をスピーディーに検索！  
製品ページから企業ヘダイレクトにお問合せ！

### ☆論文ページ

放射線設備機器やRI研究の論文・記事等をジャンルごとに掲載（無料閲覧・DL可能）

その他、製品の新規公開・更新情報や取扱企業・各関係機関からのお知らせをご案内



公益社団法人日本アイソトープ協会  
TEL：03-5395-8035 E-mail：s-shogai@jrias.or.jp

12月19日（金）

B会場 【口頭発表】

0900-1030 放射線教育 1

[2201-04-01] 科学の基盤となる保健物理の役割と期待 ―国際原子力科学オリンピック（INSO）を例に― 国際原子力機関が進めるアジア太平洋地域を中心とした人材育成の戦略 \*飯本 武志<sup>1,2</sup> (1. 東京大学、2. 第2回国際原子力科学オリンピック（INSO）日本チーム出場支援委員会)

[2201-04-02] 科学の基盤となる保健物理分野の役割と期待 ―国際原子力科学オリンピック（INSO）を例に― 日本原子力研究開発機構が国内外機関との協働で展開する人材育成の戦略 \*生田 優子<sup>1,3</sup>、飯本 武志<sup>2,3</sup> (1. 日本原子力研究開発機構、2. 東京大学、3. 第2回国際原子力科学オリンピック（INSO）日本チーム出場支援委員会)

[2201-04-03] 科学の基盤となる保健物理分野の役割と期待 ―国際原子力科学オリンピック（INSO）を例に― INS02024（フィリピン大会）及びINS02025（マレーシア大会）の出題に見る保健物理分野の重要性 \*五十嵐 悠<sup>1</sup>、角山 雄一<sup>2,4</sup>、佐藤 大樹<sup>3,4</sup>、飯本 武志<sup>1,4</sup> (1. 東京大学、2. 京都大学、3. 日本原子力研究開発機構、4. 第2回国際原子力科学オリンピック（INSO）日本チーム出場支援委員会)

[2201-04-04] 科学の基盤となる保健物理分野の役割と期待 ―国際原子力科学オリンピック（INSO）を例に― INS02025（マレーシア大会）への日本代表選手団派遣にかかる保健物理学からのアプローチ \*佐藤 大樹<sup>1,2</sup> (1. 日本原子力研究開発機構、2. 第2回国際原子力科学オリンピック 日本チーム出場支援委員会)

1030-1200 放射線教育 2

[2205-08-01] 各国の若手研究者に対するアンケートから考える国際的な連携の可能性 \*三輪 一剛<sup>1</sup>、松本 真之介<sup>2</sup>、河野 恭彦<sup>3</sup>、三枝 裕美<sup>4</sup>、成田 真人<sup>5</sup>、富田 賢吾<sup>1</sup> (1. 名古屋大学、2. 京都大学、3. 原子力規制庁、4. A&Y Institute Co., Ltd.、5. QST)

[2205-08-02] シナリオ非提示型の放射線測定訓練のためのARアプリケーションの開発 \*古場 裕介<sup>1</sup>、藤瀬 大助<sup>1</sup>、平井 悠大<sup>1,2</sup>、齊藤 柚季<sup>1,2</sup>、眞正 淨光<sup>2</sup> (1. 量子科学技術研究開発機構、2. 東京理科大学)

[2205-08-03] 放射性物質の処分における規制免除に係る人文・社会科学的観点からの考察に関する専門研究会 中間報告 \*齋藤 龍郎、保田 浩志<sup>3</sup>、三輪 一剛<sup>4</sup> (1. 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構、2. 広島大学、3. 日本検査株式会社、4. 名古屋大学)

[2205-08-04] 「統計的有意でない」という表現は市民を騙す \*永井 宏幸<sup>1</sup> (1. NPO市民科学研究会)

1300-1430 放射線計測 3

[2209-12-01] 薄膜プラスチックシンチレータを用いた213Poのα線検出に関する検討 \*添田 悠也<sup>1</sup>、山田 崇裕<sup>1,2</sup> (1. 近畿大学大学院 総合理工学研究科、2. 近畿大学 原子力研究所)

[2209-12-02] 低エネルギー光子に対するGe検出器効率校正における小角散乱の影響 \*村田 紘希<sup>1</sup>、添田 悠也<sup>1</sup>、山田 崇裕<sup>1,2</sup> (1. 近畿大学大学院総合理工学研究科、2. 近畿大学原子力研究所)

[2209-12-03] 定位置体角法を用いた医用α核種の放射能測定の最適化 \*大塚 聖也<sup>1</sup>、寺澤 輝羅<sup>1</sup>、山田 崇裕<sup>1</sup> (1. 近畿大学大学院 総合理工学研究科、2. 近畿大学 原子力研究所)

[2209-12-04] 複合α線ピークの分離解析に関する検討 \*寺澤 輝羅<sup>1</sup>、大塚 聖也<sup>1</sup>、山田 崇裕<sup>1</sup> (1. 近畿大学 総合理工学研究科、2. 近畿大学 原子力研究所)

1430-1520 放射線計測 4

[2213-14-01] 弘前大学における放射性エアロゾル曝露システムの開発 \*小島 康太<sup>1</sup>、笹野 理<sup>2</sup>、酒井 優菜<sup>3</sup>、大森 康孝<sup>4</sup>、玉能 佑紀<sup>5</sup>、Kranrod Chutima<sup>4</sup>、床次 眞司<sup>4</sup> (1. 弘前大学、2. 三菱電機 先端技術総合研究所、3. 弘前大学大学院 保健学研究科 放射線技術科学領域、4. 弘前大学 救急医療総合研究所、5. 長崎大学 放射線総合センター)

[2213-14-02] ラドン子孫核種エアロゾルを用いたアルファダストモニタの動的試験 \*笹野 理<sup>1,2</sup>、小島 康太<sup>1</sup>、酒井 優菜<sup>3</sup>、大森 康孝<sup>4</sup>、床次 眞司<sup>4</sup>、林 真照<sup>5</sup>、東 哲史<sup>1</sup>、柳川 祐輔<sup>3</sup> (1. 三菱電機 (株)、2. 弘前大学、3. 三菱電機 プラントエンジニアリング (株))



【2301-04-01】環境中トリチウム測定①-迅速測定法の開発とその測定結果- \*遠藤 陸冬<sup>1</sup>、小畑 結衣、清水 文香、猪狩 直哉<sup>2</sup>、狩谷 陸斗、佐々木 俊<sup>2</sup>、石川 義明<sup>3</sup>、村上 智彦<sup>4</sup>、鳥養 祐二<sup>1</sup>（1. 茨城大学 理工学研究科、2. 茨城大学 理学部、3. 公益財団法人 環境科学技術研究所、4. 株式会社 化研）

【2301-04-02】環境中トリチウム測定②-海生植物の元素同位体取込みと同位体効果の検証 \*清水 文香、遠藤 陸冬<sup>1</sup>、小畑 結衣、猪狩 直哉<sup>2</sup>、狩谷 陸斗、村上 智彦<sup>4</sup>、鳥養 祐二<sup>1</sup>（1. 茨城大学大学院、2. 茨城大学理学部、3. 公益財団法人 環境科学技術研究所、4. 株式会社 化研）

【2301-04-03】トリチウムをトレーサーに用いた福島県戸川の平均滞留時間推定 \*北山 結彩、桑田 遼<sup>1</sup>、Kheamsiri Kheamruthai<sup>1</sup>、福田 ほか<sup>1</sup>、田中 和貴、山田 棕平、赤田 尚史<sup>1</sup>（1. 弘前大学）

【2301-04-04】極低濃度有機結合型トリチウム分析手法を用いた海産物試料の分析 \*桑田 遼<sup>1</sup>、Kheamsiri Kheamruthai<sup>1</sup>、北山 結彩、池田 愛実<sup>2</sup>、山田 棕平<sup>3</sup>、Anderson Donovan<sup>3</sup>、天野 洋典<sup>5</sup>、鷹崎 和藏<sup>5</sup>、玉利 俊哉<sup>5</sup>、赤田 尚史<sup>3</sup>（1. 弘前大学保健学研究科、2. 弘前大学医学部保健学、3. 弘前大学被ばく医療総合研究所、4. 九州環境管理協会、5. 福島県水産海洋研究センター）

【2305-08-01】日本の環境放射線モニタリングの信頼性・透明性を高めるためにーALPS処理水の海洋放出後の海域モニタリングー \*河野 恭彦<sup>1</sup>（1. 原子力規制委員会 原子力規制庁）

【2305-08-02】ディスク状吸着素材への手動通液装置の開発 \*吉井 裕<sup>1,2</sup>、王 慧、柳澤 右京<sup>1,2</sup>、松山 嗣史<sup>3,1</sup>、酒井 康弘<sup>2,1</sup>（1. 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構、2. 東邦大学、3. 岐阜大学）

【2305-08-03】エアロゾル非付着成分に着目したマスクによるラドン子孫核種吸入被ばくへの低減効果に関する実験的検証 \*酒井 優梨、Kranrod Chutima<sup>2</sup>、玉熊 佑紀<sup>3</sup>、大森 康孝<sup>3</sup>、細田 正洋<sup>1,2</sup>、石川 徹夫、床次 真司<sup>2</sup>（1. 弘前大学大学院 保健学研究科 放射線技術科学領域、2. 弘前大学 被ばく医療総合研究所、3. 長崎大学 放射線総合センター、4. 福島県立医科大学 医学部 放射線物理化学講座）

【2305-08-04】東アジア域における大気中Rn-222と壊変生成物の空間構造に関する検討 \*吉田 旭、平尾 茂一、佐藤 陽祐<sup>2</sup>（1. 福島大学、2. 大阪大学）

【2309-12-01】C-14使用時の放射線管理の適正化及び合理化 \*伊知地 猛<sup>1</sup>（1. 一財）電力中央研究所）

【2309-12-02】産業用X線CT装置における被ばく事故を想定した線量測定 \*片岡 憲昭<sup>1</sup>、辻 智也<sup>2</sup>、古渡 意彦<sup>3</sup>（1. 東京都立産業技術研究センター、2. 日本原子力研究開発機構、3. 量子科学技術研究開発機構）

【2309-12-03】放射線利用にCrew Resource Management（CRM）は必要か？有効か？ \*鈴木 智和<sup>1</sup>（1. 大阪大学）

【2309-12-04】技能競技会の実施による放射線管理員の力量向上 \*高島 駿介<sup>1</sup>、宮越 俊彦<sup>2</sup>（1. 東京電力ホールディングス株式会社 原子力運営管理部 放射線管理グループ、2. 東京電力ホールディングス株式会社 柏崎刈羽原子力発電所 原子力安全センター 放射線安全全部 グループ）

【2313-16-01】放射線健康リスク評価コードの開発 （3）造血管腫瘍に対する放射線リスク計算機能の開発 \*廣内 淳<sup>1</sup>、鯨岡 郁雄<sup>1</sup>、野口 芳宏<sup>2</sup>、真辺 健太郎<sup>1</sup>、高原 省五<sup>1</sup>（1. 日本原子力研究開発機構、2. （株）ベスコ）

【2313-16-02】放射線健康リスク評価コードを用いた放射線健康リスク評価研究：慢性被ばくに伴う固形がん死亡リスク評価の予備的解析 \*高久 侑己、佐々木 英麻、伊豆本 幸恵<sup>1</sup>、森泉 純<sup>1</sup>、荻野 晴之<sup>1</sup>（1. 原子力規制庁）

【2313-16-03】緊急時対応に係る被ばく評価の分析手法整備 - 広範囲な事故シナリオに対する被ばくの特徴分析方法 - \*小城 烈、和田山 晃大<sup>1,2</sup>（1. 原子力規制庁、2. 東京大学）

【2313-16-04】避難地域時検査における工程別レーン数の組合せ最適化 \*平岡 大和<sup>1,2</sup>、梅本 通孝<sup>2</sup>（1. JAEA、2. 筑波大学）

# 貴方の未来、自分で描こう

- やりたいこと、なりたいたい自分が描けていますか？
  - 自分で選ぶ力、選ばれる力を身につけよう！！
- 技術士は、技術者にとって最も権威のある国家資格

## 技術士を取ろう!!

概要VTR「技術士とは」

<https://youtu.be/6Odg0n5TSxU>

日本技術士会：<https://www.engineer.or.jp/>

試験・登録情報：<https://www.engineer.or.jp/sub02/>

原子力・放射線部会：[https://www.engineer.or.jp/c\\_dpt/nucrad/topics/010/010116.html](https://www.engineer.or.jp/c_dpt/nucrad/topics/010/010116.html)



### 大目標

技術士が社会で生き生きと活躍する  
原子力界全体の健全化と社会からの信頼回復に貢献する

### 中目標

「技術士＝信頼される技術者」ということを社会に定着させる  
＝ 原放技術士のブランドイメージ（能力と信用）の定着

### ● 個人の役割：技術士としての自覚

「専門家」としての「人」としての「技術士」の在るべき姿を一人ひとりが明確に自覚する

- ・『技術士』を知る（PEの特徴と期待、設立啓蒙の期待、Competency）
- ・『自分』を知り、創る（自律的にデザインする継続研鑽）
- ・『技術士』を語り、見せる（アウトカムは個人から!!）

### ● 部会の役割：職能集団としての役割

- ・目標と活動 2つの見える化（活動をoutput ⇒ outcome へ）
- ・学び直しのための情報収集と企画、分担と支援
- ・戦略的情報発信
- ・連携の精進し、仕組み作り

### ● 具体的な活動の柱

- ・人材育成（社会貢献、学び直し）
- ・認知度向上（社会貢献・制度的活用）
- ・連携（全ての技術士を活躍させるために）

### ● 通奏低音 ～ Competency

- ・福島（住民目線、社会目線）
- ・安全文化醸成と技術者倫理（公益確保）
- ・社会とのコミュニケーション

## 原子力・放射線部会の目標と活動の全体像